

車いすで街に出かけてみよう！



福祉・医療サービス系列選択者（2年生5名、3年生2名）は、「生活支援技術」の授業で

①街のバリアフリー、ユニバーサルデザインを探してみよう！

②場に応じた支援の方法を考えてみよう！

③車いすの操作を学ぼう！の目的で『車いすで街に出かけてみよう！』体験をしました。

街に出かけてみると

“街にはバリアがあふれている” “道はガタガタしている” “石ころもたくさんある”

“お店の入り口は狭く入りにくい” “歩道がかえって危ない感じがする”

“コンビニでは、高いところに商品が置いてあって届かない。”・・・などに気づきました。

体験を終えて感じたこと

利用者役で車いすに乗り、車いすの高さの目線を体験することで新たな気づきもありました。小さな段差やガタガタ道もとても揺れて怖かったです。想像以上の振動を感じました。そんな時に、介助者役の「大丈夫ですよ！」と声かけがあると安心できました。やはり声かけは大事なんだなと感じました。

普段の生活をしている私たちでさえ、狭いと感じることのあるお店に入ると、予想通りに、車いすで入ったりすることが困難でした。車いすで生活している方は、そういった場所に遭遇した時、どういう気持ちになるのか・・・とても気になりました。（3年 Iさん）

体験を終えて感じたこと

利用者役で車いすに乗ると、顔の近くに木の枝が広がっていて、顔にあたりそうになりました。

介助者役で車いすを押してみると、街の中には、段差が多く、車いすを押して行くのはとても大変でした。坂道もいくつかあり、前向きに進めばいいのか、後ろ向きに進んだ方がいいのか悩みました。車いすのスピードは、なるべくゆっくりと利用者に安心してもらえるように工夫しましたが、支援をする時には、周りをしっかりと見て、気を配り、利用者の安全を第一に考えなければいけないと感じました。（3年 Mさん）

